News & Topics
まちのわだい

市のホットなニュースを紹介！

その他の話題はこちら▶



9/1-16 ウズベキスタンチームが市内で事前キャンプ



笠置峡や恵那峡で、アジア競技大会2026の事前練習を行ったウズベキスタンナショナルローイングチーム。金メダル1個、銀メダル6個、銅メダル2個を獲得し、大活躍を見せました。



9/7 見えない危険から守る特殊災害対応訓練

建物内で塩素ガスが発生した想定で訓練を実施。特殊装備を身に着けた隊員が救助者を除染テントへ搬送し、救急隊員が応急処置をするなど、一連の対応を確認しました。



9/11 外出困難な方がロボットで観光案内

遠隔操作するロボット「OriHime」を活用した就労の実証実験がスタート。11月末まで、恵那峡遊覧船待合室で接客などを行います。

敬老の日記念事業として、小坂市長が102歳の樋田静子（しずこ）さん（大井町）を訪れ、長寿を祝いました。



9/16 いつまでもお元気で在宅高齢者を訪問



9/19 実りに感謝 恵奈の里次米抜き穂祭

唄に合わせて早乙女らが田の周りを踊る中、稲刈り衆が鎌で稲を刈りました。訪れた約400人は、稲刈りの風景や餅投げを楽しみました。



9/21 中山道広重美術館が開館25周年

式典にはポーランドのマンガ館長らも出席。25年の歩みを礎に、これからも浮世絵の魅力を発信します。



9/26・27 恵那の食の祭典 みのじのみのり祭

訪れた約8万人は、五平餅や市内各地域のグルメなど、恵那の秋を堪能しました。

おめでとうございます！☆



9/2 80歳で自分の歯20本 8020表彰式



9/7 恵那南中1年園原さん 日本舞踊3位を報告



9/13 えなの木、もりの木、きになる木コンテスト



9/13 恵那発明くふう展 表彰式

輝く
恵那人

260人目



岩村町

南雲 政志（まさし）さん（43歳）

□プロフィル

市スケートボード協会会長で、ふれあいエコプラザ多目的広場で活動する「SK8CLUB（エスケーエイトクラブ）」の運営メンバー。中学生2人、小学生1人の父で、ゴルフ場に勤務。週5日あるSK8CLUBの活動日にはほとんど参加し、休日には市外のパークにも滑りに出かける。自宅の庭にも練習環境を整えるほど、スケートボードが大好き。「マーシー」の愛称で親しまれている。

◀SK8CLUBインスタグラム



▲SK8CLUBの仲間と笑顔を交わす南雲さん（中央下）

挑戦する楽しさをみんなで
恵那のスケートボードの輪を広げる

「できた！」何度も挑戦してきた技が成功した瞬間の喜びは格別。そう話すのは、市スケートボード協会会長を務める南雲さんだ。

高校時代、兄から譲り受けたスノーボードをきっかけにボードスポーツの世界へ。20代後半に友人に誘われて本格的にスケートボードを始め、その楽しさに魅了された。令和5年秋、子どもとSK8クラブに加入したことをきっかけに、クラブの運営に関わるようになった。令和6年にはスケートボード施設「ふれあいエコプラザ多目的広場」が完成し、クラブの活動環境が整った。そして昨年4月、同協会が設立され、会長に就任。「自分は滑りたいだけだった」と笑うが、中心メンバーとして競技の魅力を発信している。

同協会のモットーは「楽しむこと」。技の上達を目指すのも、ただ滑ることを楽しむのも自由だ。「スケボーは個人競技だが、みんなが味方。転んでも何度も挑戦して、技が決まればみんなで喜びを分かち合う。その瞬間に立ち会えるのがうれしい」と目を細める。

クラブの活動日には子どもたちと一緒に汗を流す他、体験会での指導やイベントでの技の解説も担う南雲さん。子どもにも大人にも分け隔てなく接し、自らも夢中になって滑る。その姿は周囲の手本となり、多くの仲間を引きつける。5人から始まったクラブの会員は、今では未就学児から50代までの60人近くに増加。多目的広場が手狭に感じるほどになり、より安全に活動できるよう、滑走エリアの拡張を目指している。「恵那のスケボーをもっと盛り上げたい。本格的なスケボーパークが整備されれば、市内外から多くの人が訪れ、子どもたちが刺激を受けながら成長できる」と未来を思い描く。

現在は、11月22日㈰の市長杯に向けて準備を進めている。南雲さんはこれからもスケートボードの楽しさを伝え、輪を広げていく。